

Health & Safety

NEWS FOR YOUR LIFE FROM YAMAGATA UNIVERSITY HOSPITAL...

山形大学病院ニュース

第9号

2004年8月

COE講演会

第二内科(消化器内科) 河田 純男



昨年七月に山形大学医学部から提案された「地域特性を生かした分子疫学研究」が二十一世紀COE研究プログラムとして採択されたことは皆様御承知のことと思います。このプログラムの五年間かけて世界的な研究教育拠点(COE・センター・オブ・エクセレンス)の形成を文部科学省が国家プロジェクトとして支援するものです。

山形大学医学部の「地域特性を生かした分子疫学研究」拠点においては研究期間の二年目に入り成果がスタートしています。そこで医学部の皆様はその成果の一端を御報告するために、七月五日に「山形大学医学部二十一世紀COE成果発表会」が開催されました(資料参照)。

最初に嘉山医学部長からCOEの意義について説明があり、プログラムの推進にあたって各研究者に対してのお願いが暖かい励ましの言葉がありました。

加藤 宏司 先生が期待されます。加藤 宏司 先生は、この検査の具体的な手順作成の中心的役割を担っていらっしゃいます。

高島町の検査には各診療科(部)だけでなく、高島町の多大な御支援と、インフォームド・コンセントを得るために技術部、おおよび検査の映像を記録するための技術協力、それぞれの大協力を得ています。ここに紙面をかりて御礼を申し上げます。

今後、高島町での検査が進み、データが蓄積されてきますと、名実ともに世界的な研究教育拠点が形成されると思えます。山形大学医学部および附属病院の構成員各位におかれましては益々の御協力・御支援をいただきますようお願い申し上げます。

「資料」

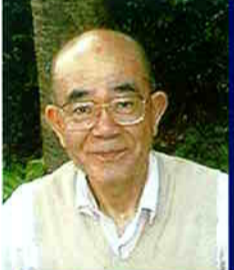
公開講座
「山形大学医学部二十一世紀COE成果発表会」
日時：平成十六年七月五日
午後五時より
会場：山形大学医学部
大講義室

■ 学部長挨拶 医学部長 嘉山孝正
■ 主催者挨拶 拠点リーダー 河田純男

■ 講演
座長 病院長 山下英俊
(1) 第一内科におけるCOE高島町特殊検査プログラムの現状と展望 今田恒夫
(2) C型肝炎ウイルスに対する感染感受性遺伝子の検索 齊藤貴史
(3) 多数の候補遺伝子を用いた2型糖尿病の病因遺伝子解析 大門 眞
(4) 孤発性パーキンソン病のリスク遺伝子 加藤 宏司

医学部工学部 交流セミナー

神経機能統御学分野 加藤 宏司



第三十一回山形大学医学部工学部セミナー(医工セミナー)が、七月二十三日(二〇〇四年)に医学部第四講義室で開催されました。

加藤 宏司 先生(臨床的機能再生部門)が、七月二十三日(二〇〇四年)に医学部第四講義室で開催されました。

遺伝に関する悩みを持っている人に、正しい遺伝学の知識を知って頂いて、決断の道をサポートすることを遺伝カウンセリング室(室長：早坂清教授)が担当しています。

遺伝カウンセリング室では、伝力カウンセラーが、生きた子が遺伝の病気になるかどうか心配だ」という人の相談、遺伝子検査前の説明



遺伝カウンセリング室

皮膚科 三橋 善比古

診断がついたあとの心理的サポートなどを行います。

また、「遺伝する病気かどうか分からないが、とにかく心配だ」という人にも対応致します。遺伝子診断を行うという科は多いと思えますが、遺伝や遺伝子診断についてはカウンセリングが必要なのは、是非ご相談下さい。

当院では、日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会が合同で行っている臨床遺伝専門医制度の専門医が三名おります。大学によってもまだ遺伝専門医がいらない所もあるので、この三名という数は自慢できるものです。この三名の他、各診療科の先生方も加わってカウンセリングを行っています。

現在、全国の大学病院の約半数に遺伝カウンセリング室が設置されています。このような部署が必要になってきた背景について説明したいと思います。

従来、遺伝子は神の領域で、すなわち、遺伝子は親から子へと引き継がれ、人智が及ぶところではありませ

た。西塚先生の演題は、医学部と工学部の研究の協力、情報の交換、学生への啓発、さらには相互の親睦をはかることなどを目的として、昭和六十二年に当時の坪井昭三医学部長と鎌田仁工学部部長の音頭で始まった以来、毎年二回飯田キャンパスと米沢キャンパスで開催されています。

今回の医工セミナーは、医学部が主催し、新しい二つのプロジェクトに関連する先生方に研究紹介を兼ねて講演していただくようプログラムを組みました。一つは、大学院医学研究科「生命環境医科学専攻(独立専攻)」の先生方で、もう一つは、昨年採択された二十一世紀COEプログラム「地域特性を生かした分子疫学研究」の紹介を兼ねた研究講演でした。

過度な期待をもたせ、不正確な情報が氾濫しています。このような、遺伝子の世界をギャップ、すなわち、検査や治療を行う側と、それを受ける側との心のギャップを埋めるための装置としての遺伝カウンセリングが必要で、遺伝を扱う10の学会が共同で作成したガイドラインや、厚生労働省など3省が合同で作成したガイドラインでも、遺伝子検査を行う前に遺伝カウンセリングを行うことを強く求めています。

遺伝子検査は、従来の血液検査や画像診断と根本的に意味が異なる問題があります。従来の診断技術は、患者本人の問題に帰することが多いのに対して、遺伝子は本人だけでなく、家族や親戚にまでおおよぶ情報をもちます。そのため、検査を行うことそれ自体が問題であったり、その結果がもたらす意味を知らずに検査することが問題になります。

遺伝子検査は、従来の血液検査や画像診断と根本的に意味が異なる問題があります。従来の診断技術は、患者本人の問題に帰することが多いのに対して、遺伝子は本人だけでなく、家族や親戚にまでおおよぶ情報をもちます。そのため、検査を行うことそれ自体が問題であったり、その結果がもたらす意味を知らずに検査することが問題になります。

例えば、現在の何の症状もないが中年になると死亡する疾患であることが遺伝子診断で分かる時、その遺伝子を本人に伝えるべきでしょうか。このような問題に、検査を行う本人が直面した例が

あります。Nancy Keenanはハンチントン病の原因を突き止めた有名な学者です。彼女の母親がハンチントン病で、彼女は保因者である可能性がありました。彼女自身が保因者かどうか、自分自身が保因者であるかどうか知ることが出来るようになった時、彼女は悩まされた。親族の多くが苦しみがら死んでゆくを知っていたから自分の検査をしないことを選んだ。最終的に彼女は自分の検査をしないことを選んだ。このように、検査をしないという選択もあります。遺伝の問題は本来自分自身の問題ですが、決断は本人にゆだねられます。遺伝に関する知識や社会の支援体制などについての情報を提供して、決断のお手伝いをすることが遺伝カウンセリングです。

遺伝に関する問題を抱えている患者さんには、是非遺伝カウンセリング室への受診をお勧め下さい。また、月一回、症例検討会を兼ねた遺伝学セミナーを開いて勉強して頂きます。遺伝学や遺伝カウンセリングに関心のある医師、看護師の皆様の出席を歓迎致します。

の入学を希望しているが、この話も聞きませんでした。会った最初の最後まで出席して下さった両学部長、講演者、裏方の仕事を担当してくれた両学部の事務の方々、それに熱心に聴講して下さった参加者に、この紙面を借りて感謝いたします。

セミナーの始まる前に幹事会が開かれ、次回の医工セミナーは今年の秋に米沢で行うこと、ポスターセッションを設けることなどが話し合われました。

医学部から米沢の工学部に出かけるのは大変ですが、分野の違った講演を聴くのも良い刺激になります。アイデアが生まれ、そして共同研究が始まれば、これに過ぎることはないと思います。次回にもスタッフや学生が多く参加するように勧めたいと思います。

高度先進医療について

第三内科
秋葉 次郎



急性白血病、悪性リンパ腫などの、血液の悪性腫瘍においては、抗がん剤を用いる化学療法が、治療の中心になります。小児の急性性リンパ性白血病のように、化学療法単独でも、良好な治療成績を挙げているものもありますが、成人の場合は、満足出来るものではありません。

この状況を打破するための手段の一つが、造血幹細胞移植療法です。血液悪性腫瘍の患者さんに、超大量の抗がん剤を投与または全身への放射線照射を行い、体内の悪性細胞を死滅させます。ただし正常の血液細胞も枯渇してしまうので、そのままでは患者さんは亡くなってしまいます。そこで強力な治療のあと、自己または他人の「血液の源になる細胞」を移植することで、正常な造血を回復させるというのが、造血幹細胞移植療法の概要です。お花畑（＝骨髄）に、きれいな花（正常の造血細胞）ではなくて、雑草（＝悪性細胞）がはびこってしまったら、それを一旦刈り取って、そこに新たに花の種（造血幹細胞）を植えてやる、といったイメージで捉えていただければよいと思います。ただこれだけの血液の源になる細胞、造血幹細胞は、かつては骨髄の中だけにあり、その後体内を流れる血液や、脾臓の結核の中の血液（脾臓血）にもあることがわかりました。よって以前は造血幹細胞移植は骨髄移植でしたが、現在は幹細胞の由来から、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植の3種類に分類されます。また、自己の幹細胞を用いるか、他人から頂くかでも分類されます。これらの組み合わせによって、いろいろなパターンで移植が行われています。現在当科で積極的に行っている同種末梢血幹細胞移植については、概要を説明致します。

同種末梢血幹細胞移植
自分以外の末梢血中の幹細胞を、充分量を集め、

それを用いて行う移植が、同種末梢血幹細胞移植です。移植のために、白血球の型（HLA）が提供者と患者と一致している必要があります。その確率は兄弟で1/4、非血縁者では十万人に数人と、かなり低くなります。移植を必要とする血液疾患の患者で、兄弟にHLAの一致した人がいた場合、提供の意志の確認後に健康診断を行い、問題がないことを確認ドナーに選定します。あとはドナーの都合のよい時に入院して頂き、5日間連続で白血球を増やす注射を行い、4日目と5日目に成分採血の要領で、幹細胞を採取、冷凍保存を行い、必要時に解冻使用します。

患者の方は、化学療法を行い、十分に腫瘍細胞を減らしてから、さらに強力な化学療法、放射線療法を行い、その後にも移植していただく幹細胞を解冻、移植します。もともと移植と言っても、実際は輸血と同様、点滴で注入するだけであり、注入されたドナーの幹細胞は、患者の骨髄液を流り始めます。通常血液を流り始める、通常移植後十〜十五日目に、ドナー由来の白血球が見られるようになります。生着した幹細胞は、その後血液を造り続け、その後感染や移植片対宿主病など、いくつもの山がありますが、それらを一つ一つ乗り越えて、概ね移植後九〜十二日目で退院の日を迎えます。

当科ではこれまで六十例を超える移植を行ってきました。Dr. Thomasが「発展途上の科学」と言ったように、移植にはまだまだ改善の余地があります。移植が不要となる日もいろいろありますが、それはまだ遠い先であり、それまで多くの患者を救うため、症例を積み上げながら、よりよい移植を追求するのが、我々血液内科医の責務と考え日夜努力しております。

図1 県内医療機関の回答 n=411

調査項目	回答あり	回答なし	割合 (%)
新患予約をしたこと	349	67	85%
パンフレットを見たこと	232	179	57%
ホームページを見たこと	299	111	58%

図2 センターで予約した患者様の診療経験の有無

経験の有無	人数	割合 (%)
ある	24	68%
ない	48	33%
無回答	2	1%

「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとし、看護の理解や関心を深めてもらうという種々な啓発活動が行われている。

二十世紀の贈り物「世界一の長寿国、日本」、二十一世紀は「心の移動」の時代とも言われ、誰もがもっている純粋な「助け合いの心」「看護の心」を、一人ひとりが分ちあう目的で本院では、五月十三日に高校生二十名を対象に「ふれあい看護体験」を実施した。

憧れのユニホームでワンデー・エンジェルとなり、山下病院長より看護職の地位や医療者としての必要なポイント（シッポ）と姿勢についての訓話を頂いた後、血圧測定、足浴、洗髪、車椅子移動介助や疑似患者体験などを体験してもらった。

参加した高校生は、ふれあい看護体験を通して、病院に抱いていた暗いイメージを払拭し、将来は看護師・他の医療職になりたいという夢を膨らませ、大きな手応えを感じた人や進路の選択肢を広げられた感想が寄せられた。「ふれあい看護体験」の場を提供することで若い世代が、

「看護の心をみんなの心に」とエジプト人は呼んだ。どんな時も、絶えず音楽は身近にある。思い出しの振り起しにより心の安定を呼び、緊張を緩和し、人とのふれあいを促進させてくれる。「コルチゾール」値が上昇し、NK細胞の活性化により免疫機能、心身に好影響を及ぼすという報告もあります。

旧端午の節句（六月二十二日）の宵、夕食を済ませた患者さん、見舞いに訪れたご家族の方々が大勢外來来客フロアホールに集まり、「ハートフルコンサート」が開催された。平成七年七月七日に第一回七ツコソナートが開催されたから、恒例となり継続的に開催され十六回目と続いた。このたびは、院内医師の返信が遅い、院内医師の遅い以外の意見が多い結果で、新患予約システムについて県内医療機関、院内医師より多数の問題点が指摘されました。従来どおり予約システムと、センターを經由する予約システムと、センターに管理されているため、医師の不在情報がセンターの予約システムに反映されないなどの問題が生じていました。また、地域の医療機関は新患予約と同時に検査の予約が出来るシステムや担当医を指定できるシステムなど、患者様を紹介する立場として、高度な医療が受けられるおかつ患者様の便宜が図られるシステムを要望していることがわかりました。

平成十五年度の外來患者紹介率が五・一五％となり本年六月より基本診療の紹介ランク上昇したことから、センターの予約システムは調査時点より浸透してきていると思われ、今回の調査で明らかになった問題点を、運営委員会では地域連携のシステム構築に向けて検討を重ねたいと存じます。

認定看護師取得

佐藤 貴美

認定看護師とは、看護実務経験5年以上の看護師、保健師、助産師を対象に半年間の認定看護教育専門課程を修了して認定審査に合格すること。

認定審査は、認定看護協会が設けた資格です。分野は、救急看護、重症集中ケア、WOC看護、ホスピスケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、感染管理、糖尿病看護、不妊看護の九分野があり、平成十四年の診療報酬改定で認定要件に看護関連項目が加わったことや、病院機能評価における看護の質の評価から、認定看護資格取得を目指す医療機関が多くなっています。

山形県では、重症集中ケア、WOC看護に各一名おり、救急看護



春の叙勲

平成十六年春の叙勲の受章者が発表され、本院関係者では次の方が受章されました。

前検査部臨床検査技師長 三浦 秀人
瑞宝双光章

前看護部看護師長 松本 和子
瑞宝単光章

編集後記

今回は二十一世紀COE発表会について河田純男教授に、加藤宏司教授には医学部工学部交流セミナーに於いてそれぞれ執筆いただきました。前者は医学部プロジェクトですが、医学部附属病院の多くの教職員が参加している中で本誌で紹介したいと、後者も本誌で発表したいという思いが強く、結果を掲載していただくと考えております。今後ともいろいろな情報を本誌で紹介したいので是非お寄せください。

第16回 ハートフルコンサート

音楽を「魂の医者」とエジプト人は呼んだ。どんな時も、絶えず音楽は身近にある。思い出しの振り起しにより心の安定を呼び、緊張を緩和し、人とのふれあいを促進させてくれる。「コルチゾール」値が上昇し、NK細胞の活性化により免疫機能、心身に好影響を及ぼすという報告もあります。

旧端午の節句（六月二十二日）の宵、夕食を済ませた患者さん、見舞いに訪れたご家族の方々が大勢外來来客フロアホールに集まり、「ハートフルコンサート」が開催された。平成七年七月七日に第一回七ツコソナートが開催されたから、恒例となり継続的に開催され十六回目と続いた。このたびは、院内医師の返信が遅い、院内医師の遅い以外の意見が多い結果で、新患予約システムについて県内医療機関、院内医師より多数の問題点が指摘されました。従来どおり予約システムと、センターを經由する予約システムと、センターに管理されているため、医師の不在情報がセンターの予約システムに反映されないなどの問題が生じていました。また、地域の医療機関は新患予約と同時に検査の予約が出来るシステムや担当医を指定できるシステムなど、患者様を紹介する立場として、高度な医療が受けられるおかつ患者様の便宜が図られるシステムを要望していることがわかりました。

平成十五年度の外來患者紹介率が五・一五％となり本年六月より基本診療の紹介ランク上昇したことから、センターの予約システムは調査時点より浸透してきていると思われ、今回の調査で明らかになった問題点を、運営委員会では地域連携のシステム構築に向けて検討を重ねたいと存じます。

看護体験

「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとし、看護の理解や関心を深めてもらうという種々な啓発活動が行われている。

二十世紀の贈り物「世界一の長寿国、日本」、二十一世紀は「心の移動」の時代とも言われ、誰もがもっている純粋な「助け合いの心」「看護の心」を、一人ひとりが分ちあう目的で本院では、五月十三日に高校生二十名を対象に「ふれあい看護体験」を実施した。

憧れのユニホームでワンデー・エンジェルとなり、山下病院長より看護職の地位や医療者としての必要なポイント（シッポ）と姿勢についての訓話を頂いた後、血圧測定、足浴、洗髪、車椅子移動介助や疑似患者体験などを体験してもらった。

参加した高校生は、ふれあい看護体験を通して、病院に抱いていた暗いイメージを払拭し、将来は看護師・他の医療職になりたいという夢を膨らませ、大きな手応えを感じた人や進路の選択肢を広げられた感想が寄せられた。「ふれあい看護体験」の場を提供することで若い世代が、

孤立しがちな若者には、思いやりや人とのふれあいを欠いて成長している、と言われているが、参加した高校生から、看護の仕事は大変そうだがやり甲斐があり、「ありがと」「気持ち良い」という人の心を動かす患者の感謝の言葉に、世話をすることや優しさの意義を実感し、感動や共感の情に自らが行動し、笑顔で楽しそうに体験している姿に心強さを感じた。こうした心こそ、看護の原点がある事を再認識させられ、純真なワンデー・エンジェルの姿勢に力強いパワーを得た。

参加した高校生は、ふれあい看護体験を通して、病院に抱いていた暗いイメージを払拭し、将来は看護師・他の医療職になりたいという夢を膨らませ、大きな手応えを感じた人や進路の選択肢を広げられた感想が寄せられた。「ふれあい看護体験」の場を提供することで若い世代が、

近い将来きつと看護師の道を行いてくれると信じている。（文責 田代 久男）

